

## SCISRS の利用について

百田 光雄(日本原子力研究所)

五十嵐信一(                    )

JNDC ニュース Ⅱ Ⅱ に CCDN の活動について岡本さんの文が載せられているが、その中に Actual data の収集、保存、探索を計算機を使つて行なつていることが書かれている。この作業は生の測定データを利用しようとする場合大層便利なものなので、もう一度紹介して多くの人に關心を持つていたゞこうと思う。

この SCISRS (Sigma Center Information Storage and Retrieval System) は BNL の Sigma Center で開発されたもので、核データ(断面積等の数値)を磁気テープに集録し、保存すると共に利用する場合には出来るだけ早く、容易に探し出せるように作られたデータ保存機構である。現在 BNL の Sigma Center と Saclay の ENEA 中性子データ収集センター (CCDN) では計算機を使つてこの作業を行ない、データの集積と共に利用者からの要請に答えて、集録してあるデータの数値のプリントを提供することも行なつている。

SCISRS テープに集録されているデータの種類の CINDA リストの右端を見れば分る。そこに BNL, LRL, SAC の記号がついているものがそれで、これらの記号はデータがそれぞれ BNL, Lawrence Radiation Lab. (Livermore), Saclay の CCDN によつて集積されたことを示す。(CCDN Newsletter Ⅱ Ⅱ にも SCISRS リストが載せられているがこれは現時点では既に不完全なものになつている。)

これの利用は日本の場合当シグマ委員会を通じて CCDN に申し込むことになつているので、必要とするデータの元素名、反応名と共にその CINDA ENTRY Ⅱ を当委員会あて連絡願いたい。

日本の要請により実際送られて来たプリントを見ると、必ずしも読み易いプリントではない。それは記号にをれないためでもあるが、この作業自体が未だ発展途上にあるために不統一な面のあることのためかも知れない。記号解説の手引としては BNL 883 (T-357) に詳しくのつてるので、これを参照されることをおすゝめする。特に Appendix V Ⅱ には記号の解説がのつていて、プリントを読む上には是非必要である。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆